

平成 26 年度からスタートした SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)。品川女子学院は初年度から指定を受け、「学校と社会が連携し、『起業マインド』を持つ女性リーダーを育成する研究」に取り組んでいます。3 月 22 日で行われた同校の 2 年間の研究成果の発表会についてのハイライトをお伝えします。

森上教育研究所アソシエイトコンサルタント 高橋真実

### 【校長先生コメント】

本校では、生徒が広い世界を見るようにということを常に意識している。そのために、例えば、視察で訪れたオランダの教育事情や、イスラム世界ならではのサウジアラビアの教育環境を紹介したりしている。これからの少子化時代に備えるためには、一人ひとりのパフォーマンスを上げるとともに、“含み資産”である女性の活躍が必要である。女性を、世の中に今ない価値を生み出す起業家、Job Seeker から Job Creator へと育てることが、グローバル社会で日本が戦っていくために重要なことである。そのために、問題発見力、内省力、共感力、発信力が必要な力であると定義し、これらを支える基盤として英語コミュニケーション力、英語プレゼン力の双方を育成することを目指した。

### 《基調講演》東京大学産学連携本部イノベーション推進部長 各務茂夫教授

講演では、「起業マインドとイノベーション」をテーマに、活躍中の起業家の事例を紹介しながら、企業家の要件としての、Passion (折れない心/諦めない心, 準備力, したたかなリアリズム, 想像力と創造力) と Intelligence (変化に対する洞察力と事業機会の発見力, 求心力となるコンセプト・理念, グローバルな視点) について述べられた。

※基調講演に続き、各プロジェクトと英語コミュニケーション能力育成についての研究報告が行われました。

#### 【P1：デザイン思考講座】

デザイン思考から問題発見力を育成する講座で、前慶應義塾大学教授坂井直樹先生の監修に基づくもの。最終的な目標を「起業マインドを持つ」こととし、身近な課題を発見し、グループで解決法を議論するワークショップを中心として実施。このプロジェクトを通して、問題発見力、共感力、発信力を養うことができる。指導する教員の態勢づくりのために、坂井先生によるワークショップを教員も受けた。

#### 【P2：リーダーシップ講座】

熊平美香日本教育大学院客員教授監修による講座で、チームで課題の解決法を議論するワークショップを中心とした講座。リーダーシップに必要な能力として、主に内省力と共感力を養う。団体の誰もが主体的に動けるよう影響力を持ち、また、誰もが団体に影響力を発揮できるようなリーダーシップを体系的に学ぶ。合唱コンクールの実体験を通して学ぶことや他社の事例などを研究することを中心とした。この講座では、グロービス経営大学院との交流授業や、シンガポールでのリーダーシップ研修への参加も実施された。

#### 【P3：家庭科 CBL(Challenge Based Learning)】

衣食住から解決すべき課題を発見し、現状調査、共有、解決策の提案、実行・発信までのプロセスを ICT を活用して行うもの。優秀班は、一昨年はシンガポール、昨年はオーストラリアで活動発表・ディスカッションを実施。

#### 【P4：起業体験プログラム】

P1～P3 の実践編として、身に着けた起業マインドを実際に社会に問う場。企画立案はもちろん、企業理念の確立、保護者や大学生や協力企業のサポートを受けての株主総会も実施。慶應義塾大学 SFC のゼミとの連携も行われた。

#### 【英語コミュニケーション能力育成に関する取組み】

英語コミュニケーション育成のため、中学ではイマージョン教育(体育、家庭科)、洋書講読、英語劇の実施、高校では GTEC 受験、ディベート、スカイプ利用による会話トレーニングに取り組んだ。

### 《生徒による発表》

最後に、生徒による、シンガポールでのリーダーシップ研修、家庭科 CBL、起業体験プログラムについての発表が行われました。起業体験プログラムの発表では、「スマホを使った Social Gift」、「高校生外国人ツアーガイド」「新たな保健室(医療機関と保健室との連携医療)」「映画の未来を担う学校試写」、「しゃべりんピック」などユニークな事業開発の事例が紹介されました。中には、活動が具体化しているテーマもありました。

※いずれも大学や企業などの外部リソースを存分に活用したプログラムになっており、常に実社会に目を向けさせるという点では、SGH のプログラムを通じた、貴重なキャリア教育の場ともなっています。品川女子学院が継続して取り組んでいる”28 プロジェクト”を体系化したものとも言えるのではないのでしょうか。漆校長先生の”28 プロジェクト”に対するぶれない姿勢、それに応える生徒さんたちの、社会に対する問題意識、いきいきとした発表の様子が印象的な報告会でした。